Pioneer sound.vision.soul

DJミキサー

DJM-1000

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
特に、**「安全上のご注意」**は必ずお読みください。
なお、「取扱説明書」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

〔異常時の処置〕

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

〔設置〕

- 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱により火災・感電の原因となることがあります。

⚠警告

- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

- 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
  - あおむけや横倒し、逆さまにする。
  - 押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
  - じゅうたんやふとんの上に置く。
  - テーブルクロスなどをかける。

〔使用環境〕

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 風呂場・シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧（交流100ボルト 50/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

〔使用方法〕

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
  火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

⚠警告

● 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。

● 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

● 製品に付属の電源コンセントには、そのパネルおよび取扱説明書に表示された容量を超える消費電力を持つ電気機器を接続しないでください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアードライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また表示してある電力以内であっても、電源を入れた時に大電流の流れる機器などは接続しないでください。

⚠注意

〔設置〕

● 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。

● 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

● 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

● ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

● 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

● 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

● 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

● 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

● 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

● 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

〔使用方法〕

● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

● 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

● ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

● 機器本体の電源スイッチを切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

〔保守・点検〕

● 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

● お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

設置場所について

- 熱を発生するアンプなどの上に直接置いたり、スポットライト等の近くで長時間使用すると、本体に悪い影響を与えますので、おやめください。
- チューナーやテレビから離して設置してください。近くに置いた場合は、雑音や映像の乱れが生じることがあります。なお、室内アンテナをご使用の場合に起こりやすく、このようなときは、屋外アンテナを使用するか、本機の電源を切ってください。

EIA標準ラックへの取り付け

本機のフロントパネル左右の取付穴は19インチのEIA標準ラックに適合します。

- ラックに適合したネジを使用して確実に固定してください。（本機にはネジは付属していません。）
- ラックに取り付けた時は指を挟み込まれないように十分ご注意ください。

ご注意

- パワーアンプのすぐ上に取り付けないでください。アンプの発生する熱により故障する恐れがあります。また、ハムやその他のノイズを拾う恐れがあります。
- 入出力端子に接続するコード類が上側の機器に触れないように、上側に取り付ける機器との間を1U（43.7mm）程度あけて取り付けてください。
- 移動する際は、ラックから取り外してください。
- ラックに取り付けたまま移動する際は、ショックや振動が加わらないように十分ご注意ください。

目　次

ご使用の前に
安全上のご注意 2
本機の特長 4
付属品の確認 4
接続のしかた 5
接続パネル 5
電源コードの接続 6
入力端子の接続 6
エフェクター、出力端子の接続 7
MIDI端子について 7
マイク、ヘッドホンの接続 8
デジタルリンク接続 8
各部の名称とはたらき 9

操 作
操　作 13
基本操作 13
フェーダーカーブの調整 13
フェーダースタート機能 14
外部エフェクターの使用 14
デジタルリンク機能 15

その他
故障？ちょっと調べてください 16
保証とアフターサービスについて 17
仕　様 18
ブロックダイヤグラム 19
ご相談窓口・修理窓口のご案内 20

製品のお手入れについて

通常は、柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭きとり、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
お手入れの際は、差し込みプラグをコンセントから抜いて行ってください。

本機の特長

① 高音質設計
アナログ信号は最短の伝送経路を通り、かつ96kHzサンプリング、24bit高音質A/Dコンバーターによってデジタル化されるため、最良の状態でデジタルミキシングステージへと導かれます。
ミキシングは32bitDSPによって音質劣化ゼロで実行され、同時に理想的なフィルタリングによるDJに最適なクラブサウンドを生成します。
また、これらを最大限に引き出す為に、音に不要な振動を与えない高剛性筐体、低域の量感を支えるR-coreトランスを採用した強力な電源部などを始めとした多くの音質への配慮を行い、クリヤーでパワフルなクラブサウンドを実現しました。

② 3バンドアイソレーター
帯域別に＋6dB～－∞までレベルコントロールできる3バンドアイソレーター内蔵。
シャープな操作感により様々なDJパフォーマンスを再現できます。

③ 2系統3種類のセンド/リターン
2系統3種類のセンド/リターン(PRE INSERT/POST INSERT/AUX)の搭載によりエフェクターやサンプラーなどの外部機器と様々な接続ができDJプレイの幅が広がります。

④ フェーダーカーブアジャスト
従来のクロスフェーダーのカーブ調整だけでなく、CHフェーダーのカーブ調整も可能。
両フェーダーともに17段階の切り替えが可能なのでDJ各自がもっとも使いやすいようにカスタマイズすることができます。

⑤ デジタルイン/アウト
44.1／48／96kHzの各サンプリングレートに対応したデジタル入力部により、デジタル機器の接続で音質劣化のないシステムが構築可能です。
24bit/96kHzサンプリングによるデジタルアウト端子を搭載。高音質が要求されるスタジオでのトラック作成などでも便利です。
（リニアPCM以外は対応していません。）

⑥ MIDIアウト
外部にMIDI信号を出力することによりMIDI信号にて外部機器を動作させることが可能です。

⑦ デジタルリンク機能
当社DJ用CDプレイヤー、DJエフェクターおよびAVミキサーとデジタルリンクケーブルで接続することで多彩な機能が実現可能。

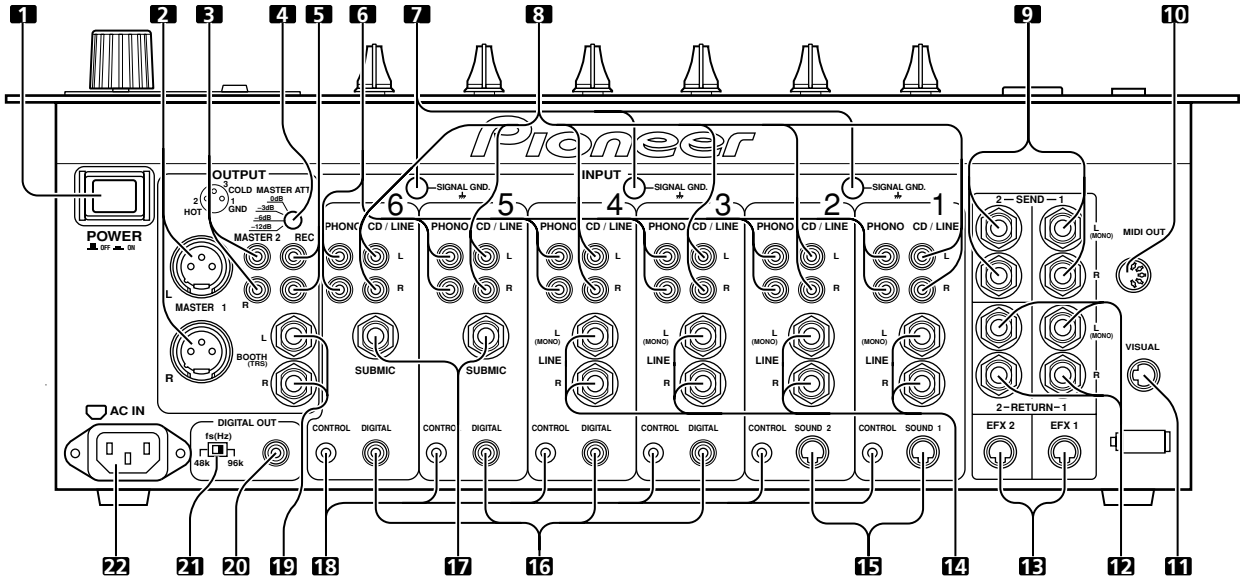
⑧ その他
- コントロールケーブルでの接続により、フェーダー操作に連動して当社ＤＪ用ＣＤプレーヤーがスタートする「フェーダースタートプレイ」が可能。
- 各帯域ごとに＋6dB～－26dBまでレベルコントロール可能な「3バンドイコライザー」搭載。
- DJがよりモニタリングしやすいようにブースモニターの特性をコントロールできる「2バンドブースEQ」搭載。
- 各chの入力をフレキシブルにクロスフェーダーにアサインできる「クロスフェーダーアサイン」搭載。
- マイク入力時に自動的に曲の音量を下げる「トークオーバー機能」搭載。

付属品の確認

取扱説明書	1
電源コード	1
保証書	1
ご相談窓口・修理窓口のご案内	1

接続のしかた

接続パネル



1 電源スイッチ(POWER)

2 マスター出力端子1(MASTER1)
XLRタイプ（オス）の平衡出力です。

3 マスター出力端子2(MASTER2)
RCAタイプの不平衡出力です。

4 マスター出力アッテネーターツマミ (MASTER ATT.)
マスター1出力とマスター2出力の出力レベルを減衰します。
0dB、－3dB、－6dB、－12dBから選択できます。

5 録音出力端子(REC)
RCAタイプの録音用出力端子です。

6 フォノ入力端子(PHONO)
RCAタイプのフォノレベル（MMカートリッジ用）入力端子です。
ラインレベルの信号を入力しないでください。

7 信号グランド端子(SIGNAL GND)
アナログプレーヤーのアース線を接続します。
安全アース端子ではありません。

8 CD/ライン入力端子(CD/LINE)
RCAタイプのラインレベル入力端子です。
DJ用CDプレーヤーやラインレベルの出力機器を接続します。

9 センド出力端子(SEND 1、2)
φ6.3フォーンタイプの出力端子です。
外部エフェクターなどの入力端子と接続します。
Lチャンネルのみ接続した場合は、L+Rのモノラル信号を出力します。

10 MIDI出力端子(MIDI OUT)
DINタイプの出力端子です。
他のMIDI機器と接続します（7ページ参照）。

11 ビジュアルリンク端子(VISUAL)
デジタルリンク対応のパイオニア製ビデオミキサー（スイッチャー）とデジタルリンクケーブルで接続すると、本機のクロスフェーダーでビデオミキサーのクロスフェーダーを操作できます。

12 リターン端子(RETURN 1、2)
φ6.3フォーンタイプの入力端子です。
外部エフェクターなどの出力端子と接続します。
Lチャンネルのみ接続した場合は、Lチャンネルに入った入力がRチャンネルにも入力されます。

13 EFX用リンク入出力端子(EFX 1、2)
デジタルリンク対応のパイオニア製DJエフェクター（EFX-1000）とデジタルリンクケーブルで接続すると、センド・リターンの接続をデジタルで一括して行え、さらにフェーダーエフェクト機能などが使えます。

14 ライン入力端子(LINE)
φ6.3フォーンタイプのラインレベル入力端子です。
Lチャンネルのみ接続した場合は、Lチャンネルに入った入力がRチャンネルにも入力されます。

15 CDJ用リンク入力端子(SOUND 1、2)
デジタルリンク対応のパイオニア製DJ用CDプレーヤーとデジタルリンクケーブルで接続すると、音声のデジタル接続とコントロールコードの接続を一括して行え、さらにBPM同期機能などが使えます。

16 デジタル入力端子(DIGITAL)
RCAタイプのデジタル同軸入力端子です。
DJ用CDプレーヤーなどのデジタル同軸出力端子と接続します。

17 サブマイク入力端子(SUBMIC)
φ6.3フォーンタイプのマイク入力端子です。
本機のチャンネル5・6をマイク入力チャンネルとして使用します。

18 コントロール端子(CONTROL)
φ3.5ミニフォーンタイプのDJ用CDプレーヤーコントロール端子です。
本機のフェーダーでDJ用CDプレーヤーのスタート・ストップをコントロールします。

19 ブースモニター出力端子(BOOTH)
φ6.3フォーンタイプのブースモニター用出力端子です。
MASTERフェーダーと関係なくBOOTH MONITOR LEVELツマミで音量を調整できます。（TRS出力のため、バランス、アンバランス出力に対応しています。）

20 デジタル出力端子(DIGITAL OUT)
RCAタイプのデジタル同軸出力端子です。
マスター出力のデジタル出力です。

21 サンプリング周波数切換スイッチ(48k/96k)
デジタル出力のサンプリング周波数を96kHzと48kHzから選択します。

22 電源インレット端子(AC IN)
付属の電源コードで壁のACコンセントと接続します。

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて行ってください。

電源コードの接続

電源コードは最後に接続してください。

- すべての接続が終了したら、プレーヤー部後面にあるACインレットに付属の電源コードの一端を差し込み、電源プラグを壁の電源コンセントまたはアンプの予備電源コンセントへ接続します。
- 必ず付属の電源コードをご使用ください。

入力端子の接続

パイオニア製DJ用CDプレーヤー

DJ用CDプレーヤーの音声出力端子を本機のCD/LINE入力端子の1つに接続し、コントロールコードを同じチャンネルのCONTROL端子に接続します。接続したチャンネルの入力切換スイッチを「CD/LINE」にします。
デジタル接続する場合は、DJ用CDプレーヤーのデジタル同軸出力端子を本機のDIGITAL入力端子の1つに接続し、接続したチャンネルの入力切換スイッチを「DIGITAL」にします（チャンネル1とチャンネル2にはDIGITAL入力端子はありません）。

アナログターンテーブル

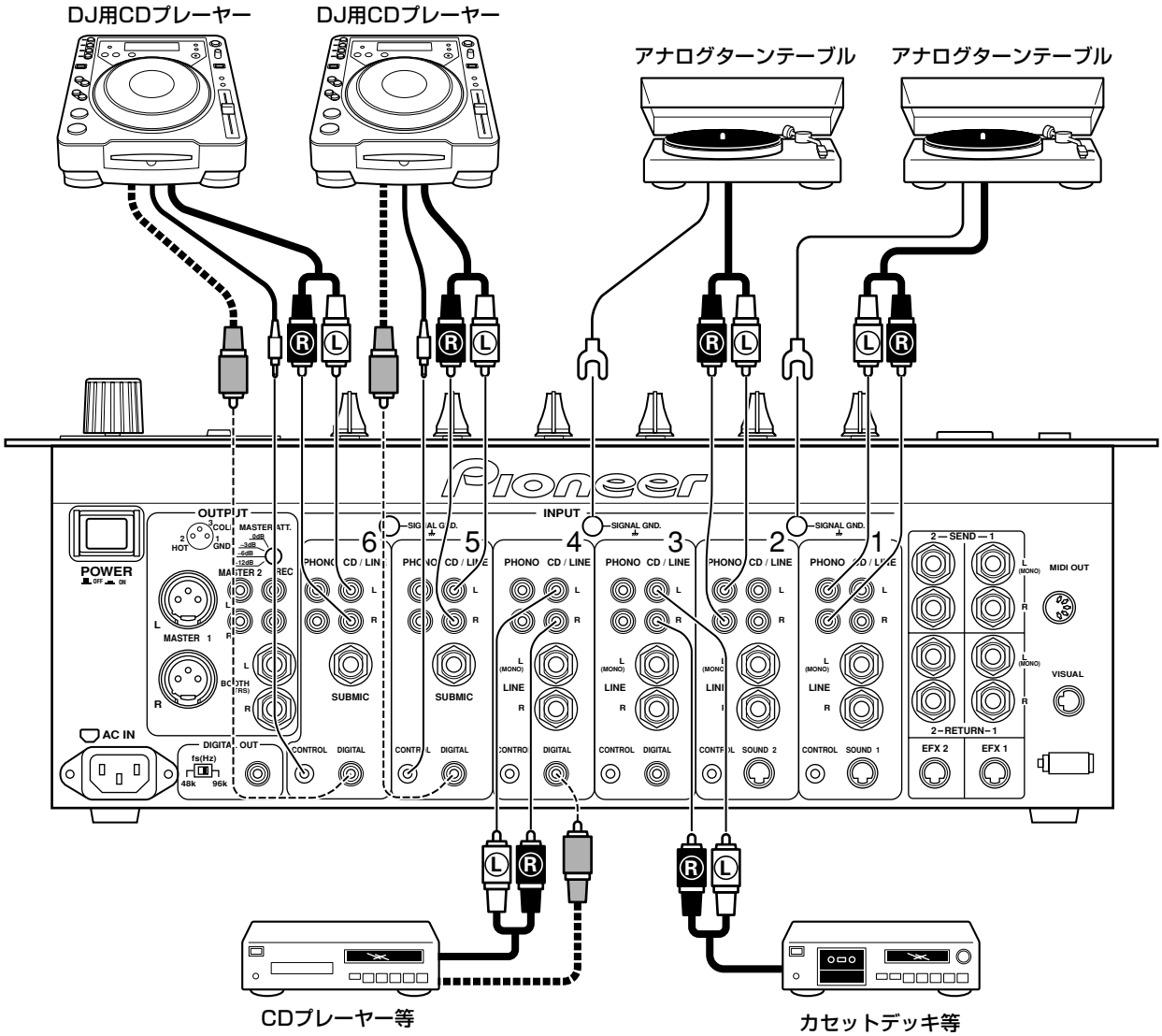
アナログターンテーブルの音声出力コードを本機のPHONO入力端子の1つに接続し、接続したチャンネルの入力切換スイッチを「PHONO」にします。本機のPHONO入力はMMカートリッジ用です。
アナログターンテーブルのアース線は、本機のSIGNAL GND端子のいづれかに接続します。

その他のラインレベル出力機器

カセットデッキやCDプレーヤーは、音声出力端子を本機のCD/LINE入力端子の1つに接続し、接続したチャンネルの入力切換スイッチを「CD/LINE」にします。
接続プラグがφ6.3mmのフォーンプラグの場合は、本機のLINE入力端子の1つに接続し、接続したチャンネルの入力切換スイッチを「LINE」にします（チャンネル5とチャンネル6にはLINE入力端子はありません）。Lチャンネルのみ接続した場合は、Lチャンネルに入った入力がRチャンネルにも入力されます。

デジタル出力機器

CDプレーヤー等でデジタル接続する場合は、機器のデジタル同軸出力端子を本機のDIGITAL入力端子の1つに接続し、接続したチャンネルの入力切換スイッチを「DIGITAL」にします（チャンネル1とチャンネル2にはDIGITAL入力端子はありません）。



エフェクター、出力端子の接続

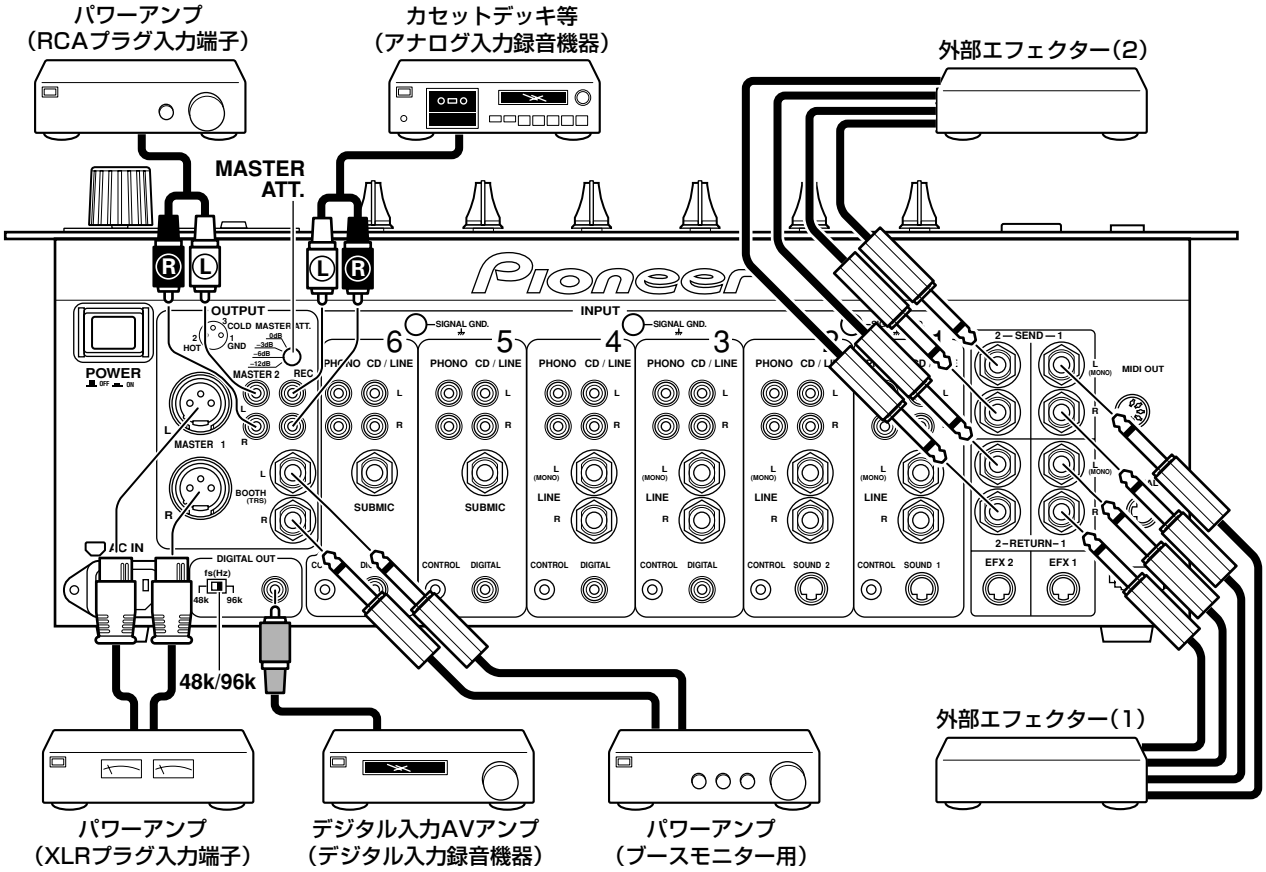
マスター出力
XLRプラグ対応の平衡出力のMASTER1とRCAプラグ対応の不平衡出力のMASTER2があります。MASTER ATT.ツマミで、接続するパワーアンプの入力感度に合わせて、出力レベルを設定します。

ブースモニター出力
φ6.3mmのフォーンプラグ対応の不平衡出力です。マスターフェーダーと関係なくBOOTH MONITOR LEVELツマミで音量を調整できます。

録音出力
RCAプラグ対応の録音用出力端子です。

デジタル出力
RCAプラグ対応の同軸デジタル出力端子です。接続する機器に合わせて、サンプリング周波数を選択できます（96 kHz/48 kHz）。

外部エフェクター
φ6.3mmのフォーンプラグで外部エフェクターの入力端子を本機のSEND端子に接続します。
モノラル入力のエフェクターを使用するときは、Lチャンネル出力のみに接続します。エフェクターにはLRミックスされた音声が送られます。
φ6.3mmのフォーンプラグで外部エフェクターの出力端子を本機のRETURN端子に接続します。
モノラル出力のエフェクターを使用するときは、Lチャンネル入力のみに接続します。エフェクターからの信号はLR両方のチャンネルに入力されます。



MIDI端子について

MIDI（ミディ: Musical Instrument Digital Interface）とは、電子楽器やコンピューターの間で情報のやり取りを行うための統一規格です。
MIDIコネクターを持つ機器どうしをMIDIケーブルで接続してデータを送ったり受け取ったりします。

DJM-1000はMIDIにより、機器の操作情報を外部MIDI機器に送信します。

DJM-1000コントロール	MIDIコントロールコード	MIDIコントロール名	MIDI Channel
クロスフェーダー操作	CC11	Expression	1

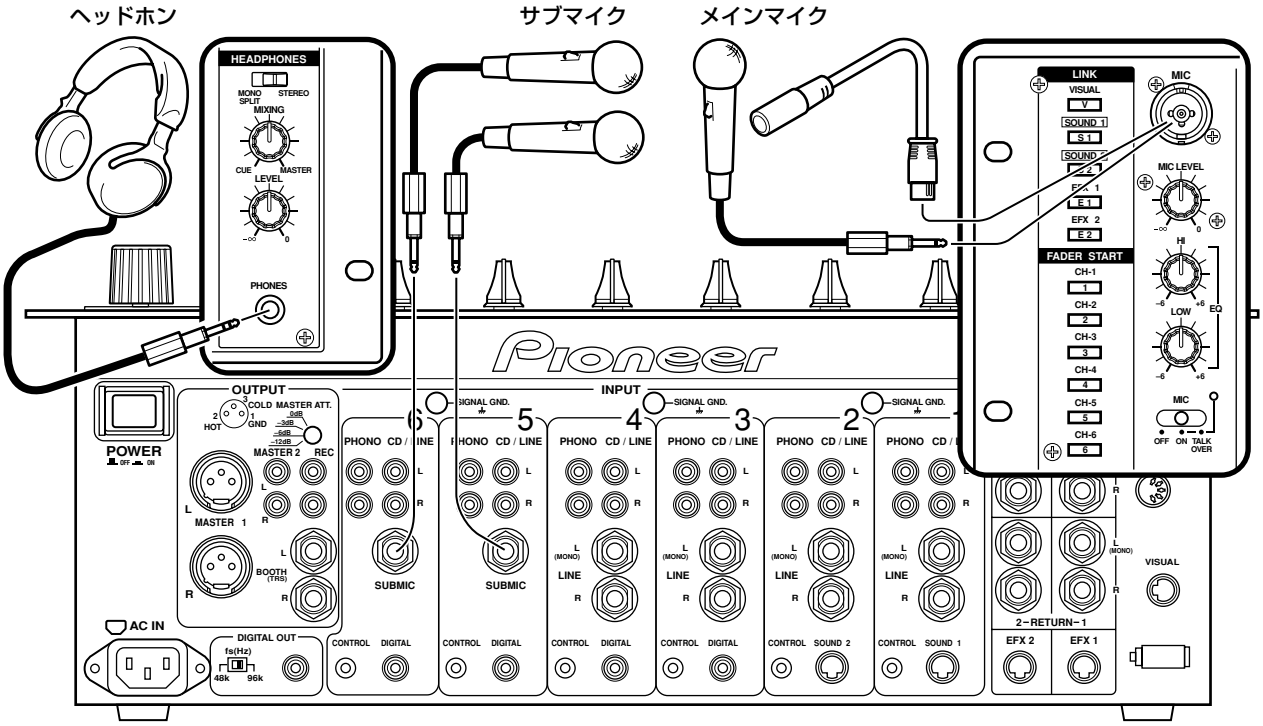
※ クロスフェーダー操作に合わせて、0-127 のMIDIデータを出力します。
※ ビジュアルリンク機能を使用している時は、MIDI情報は出力されません。

マイク、ヘッドホンの接続

ヘッドホン
操作パネル（上面）のPHONES端子にφ6.3mmのステレオフォーンプラグのヘッドホンを接続できます。

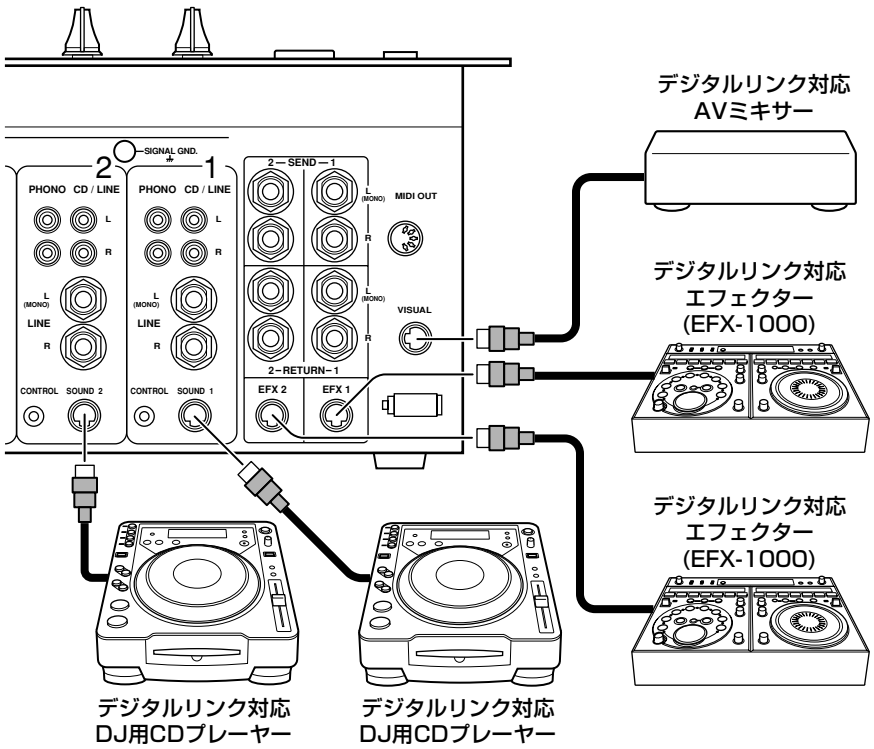
メインマイク
操作パネル（上面）のMIC端子にφ6.3mmのフォーンプラグまたはXLRプラグのマイクを接続できます。

サブマイク
本機のチャンネル5またはチャンネル6のSUBMIC端子にφ6.3mmのフォーンプラグのマイクを接続できます。
接続したチャンネルの入力切換スイッチを「SUBMIC」にします



デジタルリンク接続

（将来発売されるデジタルリンク対応機器との接続を含みます。）



1本の専用ケーブル（デジタルリンクケーブル）の接続によりデジタルによるオーディオ信号のやり取りやコントロール信号のやり取りを行います（オーディオケーブルやコントロールコードの接続は不要です）。

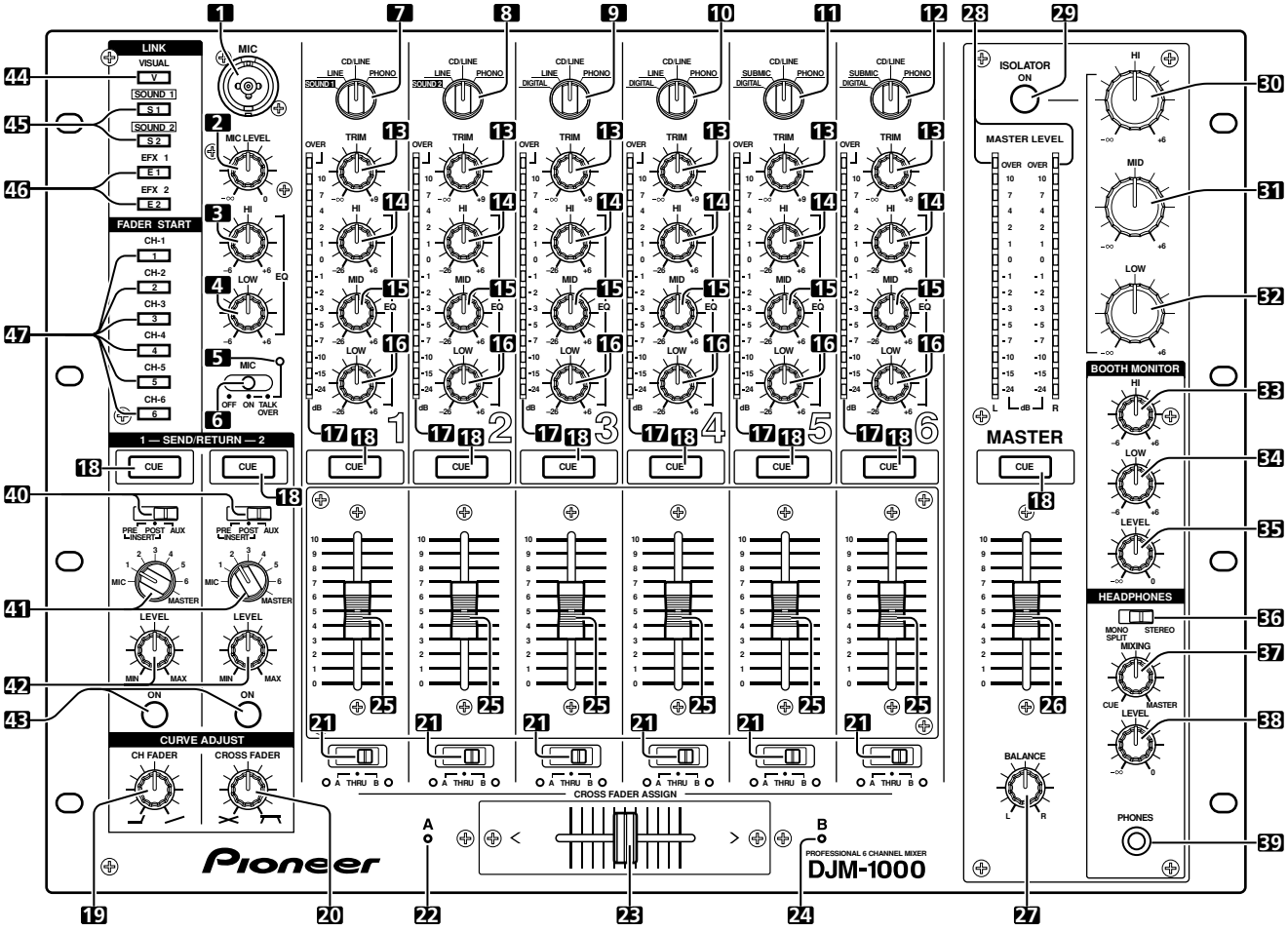
ビジュアルリンク端子（VISUAL）
デジタルリンク対応のパイオニア製ビデオミキサー（スイッチャー）とデジタルリンクケーブルで接続すると、本機のクロスフェーダーでビデオミキサーのクロスフェーダーを操作できます。（15ページ）

EFX用リンク入出力端子（EFX 1、2）
デジタルリンク対応のパイオニア製DJエフェクター（EFX-1000）とデジタルリンクケーブルで接続すると、センド・リターンの接続をデジタルで一括して行え、さらにフェーダーエフェクト機能やサウンドリンク接続時にはBPM同期機能などが使えます。（15ページ）

CDJ用リンク入力端子（SOUND 1、2）
デジタルリンク対応のパイオニア製DJ用CDプレーヤーとデジタルリンクケーブルで接続すると、音声のデジタル接続とコントロールコードの接続を一括して行え、さらにBPM同期機能などが使えます。チャンネル1、チャンネル2の入力切換スイッチを「SOUND 1」、「SOUND 2」にします。（15ページ）

各部の名称とはたらき

操作パネル



メインマイク入力コントロール部

1 メインマイク入力端子 (MIC)

XLRタイプまたはPHONEタイプの端子を持つマイクを接続します。

2 マイクレベル調整ツマミ (MIC LEVEL)

メインマイクの音量を調整します。
（調整範囲：−∞〜 0dB）

3 マイクイコライザ高音調整ツマミ (HI)

メインマイクの高音を調整します。
（調整範囲：− 6dB 〜+ 6dB）

4 マイクイコライザ低音調整ツマミ (LOW)

メインマイクの低音を調整します。
（調整範囲：− 6dB 〜+ 6dB）

5 マイク機能インジケーター

マイク ON 時に点灯します。
TALK OVER ON 時に点滅します。

6 マイク機能切換スイッチ (MIC)

OFF:
メインマイク音声は出力されません。
ON:
メインマイク音声は出力されます。
TALK OVER:
メインマイク音声は出力されます。メインマイク入力に音が入力されたら、トークオーバー機能が働き、メインマイク音声以外の全ての出力が 20dB 減衰されます。

チャンネル入力コントロール部

7 チャンネル 1 入力選択スイッチ

SOUND 1 :
デジタルリンク対応のDJ用CDプレーヤーの専用入力です（ミニ DIN 端子）。
LINE :
PHONE タイプの端子です（モノラル信号をＬチャンネルのみ接続すると、Ｌ・Ｒチャンネルに入力されます）。
CD/LINE :
RCA タイプの端子で、ラインレベル入力です。
PHONO :
RCA タイプの端子で、フォノレベル入力です。

8 チャンネル２入力選択スイッチ
SOUND 2:
デジタルリンク対応のDJ用CDプレーヤーの専用入力です（ミニ DIN 端子）。
LINE :
PHONE タイプの端子です（モノラル信号をＬチャンネルのみ接続すると、L・Rチャンネルに入力されます）。
CD/LINE :
RCA タイプの端子で、ラインレベル入力です。
PHONO :
RCA タイプの端子で、フォノレベル入力です。

9 チャンネル３入力選択スイッチ
DIGITAL :
RCA タイプの端子で同軸ケーブルデジタル入力です。
LINE :
PHONE タイプの端子です（モノラル信号をＬチャンネルのみ接続すると、L・Rチャンネルに入力されます）。
CD/LINE :
RCA タイプの端子で、ラインレベル入力です。
PHONO :
RCA タイプの端子で、フォノレベル入力です。

10 チャンネル４入力選択スイッチ
DIGITAL :
RCA タイプの端子で同軸ケーブルデジタル入力です。
LINE :
PHONE タイプの端子です（モノラル信号をＬチャンネルのみ接続すると、L・Rチャンネルに入力されます）。
CD/LINE :
RCA タイプの端子で、ラインレベル入力です。
PHONO :
RCA タイプの端子で、フォノレベル入力です。

11 チャンネル５入力選択スイッチ
DIGITAL :
RCA タイプの端子で同軸ケーブルデジタル入力です。
SUBMIC :
PHONE タイプの端子で、サブマイク入力（モノラル）です。
CD/LINE :
RCA タイプの端子で、ラインレベル入力です。
PHONO :
RCA タイプの端子で、フォノレベル入力です。

12 チャンネル６入力選択スイッチ
DIGITAL :
RCA タイプの端子で同軸ケーブルデジタル入力です。
SUBMIC :
PHONE タイプの端子で、サブマイク入力（モノラル）です。
CD/LINE :
RCA タイプの端子で、ラインレベル入力です。
PHONO :
RCA タイプの端子で、フォノレベル入力です。

13 チャンネル１～６トリム調整ツマミ (TRIM)
各チャンネルの入力レベルを調整します。
（調整範囲：－∞～＋ 9dB、中央位置でほぼ 0dB）

14 チャンネルイコライザ高音調整ツマミ (HI)
各チャンネルの高音を調整します。
（調整範囲：－ 26dB ～＋ 6dB）

15 チャンネルイコライザ中音調整ツマミ (MID)
各チャンネルの中音を調整します。
（調整範囲：－ 26dB ～＋ 6dB）

16 チャンネルイコライザ低音調整ツマミ (LOW)
各チャンネルの低音を調整します。
（調整範囲：－ 26dB ～＋ 6dB）

17 チャンネルレベルインジケーター
各チャンネルレベルを表示します。２秒間ピークホールドします。

18 ヘッドホンキューボタン／インジケーター (CUE)
RETURN 1、RETURN 2、チャンネル１～６、MASTER から希望のソースのボタンを押して、ヘッドホンを使ってモニターするソースを選択します。複数のボタンを同時に押すと、選択された音声がミックスされます。ボタンをもう一度押すと選択が解除されます。
選択されていないソースのボタンは暗く点灯し、選択されたソースのボタンは明るく点灯します。

フェーダーコントロール部

19 チャンネルフェーダーカーブ調整ツマミ (CURVE ADJUST CH FADER)
チャンネルフェーダーのカーブ特性を調整します（13ページ）。

20 クロスフェーダーカーブ調整ツマミ (CURVE ADJUST CROSS FADER)
クロスフェーダーのカーブ特性を調整します（13 ページ）。

21 クロスフェーダーアサインスイッチ／インジケーター (CROSS FADER ASSIGN)
各チャンネルの出力を、クロスフェーダーの左右どちら側に割り当てるかを選択します。（複数のチャンネルが同じ側を選択した場合、それらを加算したものが割り当てられます。）
A:
そのチャンネルの出力をクロスフェーダーのＡ側（左側）に割り当てます。Ａインジケーターが点灯します。
THRU:
チャンネルフェーダーの出力はクロスフェーダーを通らずに、そのままマスター出力に出ていきます。Ａインジケーターと Ｂインジケーターは共に消灯します。
B:
そのチャンネルの出力をクロスフェーダーのＢ側（右側）に割り当てます。Ｂインジケーターが点灯します。

22 クロスフェーダーアサイン A インジケーター (A)
電源 ON 時にオレンジ色に点灯します。

23 クロスフェーダー
各チャンネルの CROSS FADER ASSIGN スイッチによってＡ側、Ｂ側に割り振られた音声を、CURVE ADJUST CROSS FADERツマミによって決められたクロスフェーダーカーブに従い出力します。

24 クロスフェーダーアサインBインジケーター (B)
電源ON時に緑色に点灯します。

25 チャンネルフェーダー
各チャンネル音量を調整します。（調整範囲：－∞～0dB）
CURVE ADJUST CH FADERツマミによって決められたチャンネルフェーダーカーブに従い出力します。

マスター出力コントロール部

26 マスターフェーダー
マスター出力の音量を調整します。（調整範囲：－∞～0dB）
マスター出力は、C. F. ASSIGNスイッチを「THRU」にしたチャンネルの音声と、クロスフェーダーを通った音声と、メインマイクの音声が加算されたものです（モードによってはRETURN入力も加算されます）。

27 マスターバランスツマミ (BALANCE)
マスター出力、ブースモニター出力、録音出力、デジタル出力のL／Rチャンネルバランスを調整します。

28 マスターレベルインジケーター (MASTER LEVEL L、R)
LチャンネルとRチャンネルの出力レベルを表示します。各セグメントは2秒間ピークホールドします。

29 マスターアイソレーターボタン／インジケーター (ISOLATOR ON)
マスターアイソレーター機能をON/OFFします。
アイソレーター機能は、マスター出力1、マスター出力2、ブースモニター出力、録音出力、デジタル出力に有効です。
OFF時に消灯し、ON時に点灯します。

30 マスターアイソレーター高音調整ツマミ(HI)
マスター出力信号の高音調整時に使用します。
（調整範囲：－∞～＋6dB）

31 マスターアイソレーター中音調整ツマミ(MID)
マスター出力信号の中音調整時に使用します。
（調整範囲：－∞～＋6dB）

32 マスターアイソレーター低音調整ツマミ(LOW)
マスター出力信号の低音調整時に使用します。
（調整範囲：－∞～＋6dB）

ブースモニターコントロール部

33 ブースモニターイコライザ高音調整ツマミ(HI)
ブースモニター出力信号の高音調整時に使用します。
（調整範囲：－6dB～＋6dB）

34 ブースモニターイコライザ低音調整ツマミ(LOW)
ブースモニター出力信号の低音調整時に使用します。
（調整範囲：－6dB～＋6dB）

35 ブースモニターレベル調整ツマミ(LEVEL)
ブースモニター出力の音量を調整します。
マスターフェーダーとは無関係に調整できます。
（調整範囲：－∞～0dB）

ヘッドホン出力部

36 ヘッドホン出力切換スイッチ (MONO SPLIT/STEREO)
MONO SPLIT:
Lチャンネルにヘッドホン CUEボタンで選択されたソースの音声が出力され、Rチャンネルにマスター音声が出力されます（ヘッドホンCUEボタンで「MASTER」を選択時のみ）。
STEREO:
選択された音声がステレオで出力されます。

37 ヘッドホンミキシングツマミ(MIXING)
右（MASTER側）に回すとマスター出力の音声（ヘッドホンCUEボタンで「MASTER」を選択時のみ）、左（CUE側）に回すとヘッドホンCUEボタンで選択されたチャンネルとRETURNのミックス音声が出力されます。

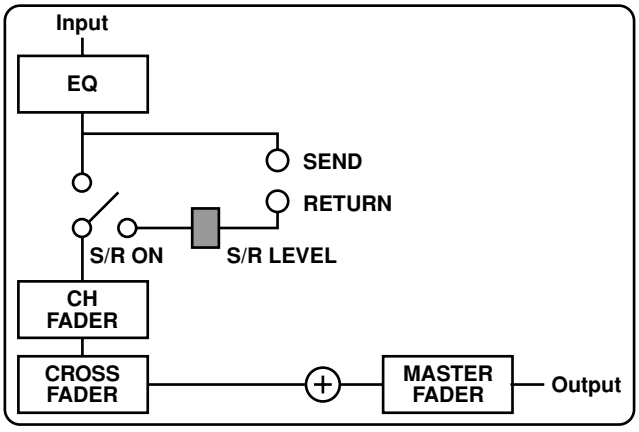
38 ヘッドホンレベル調整ツマミ(LEVEL)
ヘッドホン端子の出力音量を調整します。
（調整範囲：－∞～0dB）

39 ヘッドホン端子(PHONES)

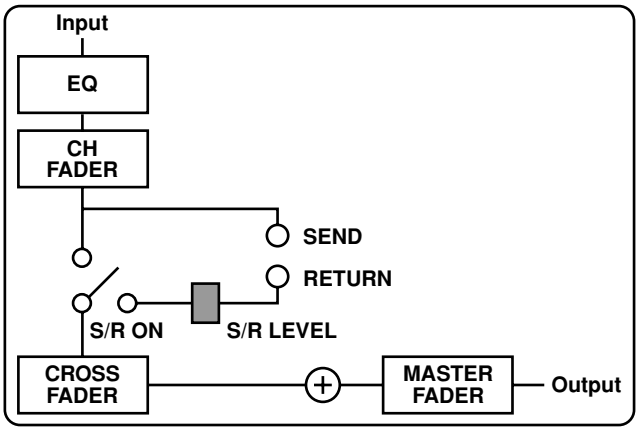
センド／リターン部

40 センド／リターンタイプ切換スイッチ
外部エフェクター接続時の信号の送り出し（センド）と取り込み（リターン）ステージを選択します（14ページ）。

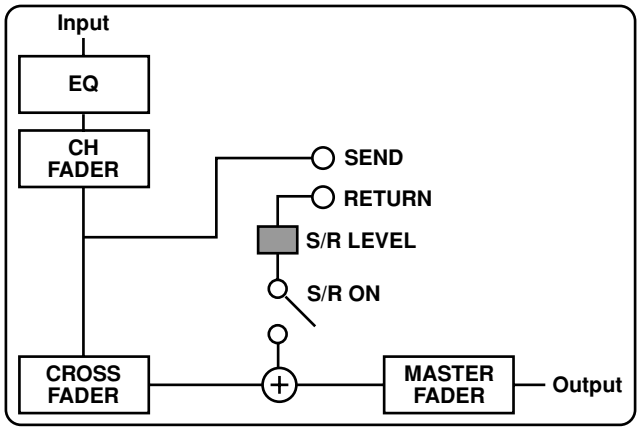
[Pre Insert型]



[Post Insert型]



[AUX型]



41 センドチャンネル選択スイッチ

センドする音声を、MIC、チャンネル１～6、MASTERから選択します。

42 リターン入力レベル調整ツマミ(LEVEL)

リターンされる信号のレベルを調整します。
（調整範囲：－∞～＋ 6dB）

43 センドリターンボタン／インジケーター(ON)

選択されたチャンネルの、選択されたタイプでSEND/RETURN動作を ON/OFF します。
RETURNジャックにプラグが挿入されているか、EFX LINK端子にデジタルリンク対応機器が接続されている時に点灯します。
点灯している時に押すと ON になり、点滅します。
ON にすると RETURN ジャックへの入力が有効になります。
EFX LINK 端子にデジタルリンク対応機器が接続されている時は、デジタルリンク対応機器（デジタル信号）が優先されます。

リンク機能 ON/OFF 部

44 ビジュアルリンクボタン(VISUAL) ／インジケーター(V)

デジタルリンク対応のパイオニア製ビデオミキサー／スイッチャーとデジタルリンクケーブルで接続すると（ミニ DIN 端子）、本機のクロスフェーダーでビデオミキサーのクロスフェーダーを操作することができます。
ON にすると点灯します。

45 サウンドリンクボタン 1、2(SOUND 1、2) ／インジケーター(S 1、2)

デジタルリンク対応エフェクターEFX-1000をデジタルリンクで接続した状態で、さらにデジタルリンク対応のパイオニア製DJ用CDプレーヤーとデジタルリンクケーブルで接続し（ミニDIN端子）、ONにするとBPM同期機能を実現することができます。
ONにすると点灯します。

46 エフェクターリンクボタン 1、2(EFX 1、2) ／インジケーター(E 1、2)

デジタルリンク対応のパイオニア製 DJ エフェクター（EFX-1000）とデジタルリンクケーブルで接続し（ミニ DIN 端子）、ONにするとフェーダーエフェクト機能を実現することができます。
ON にすると点灯します。

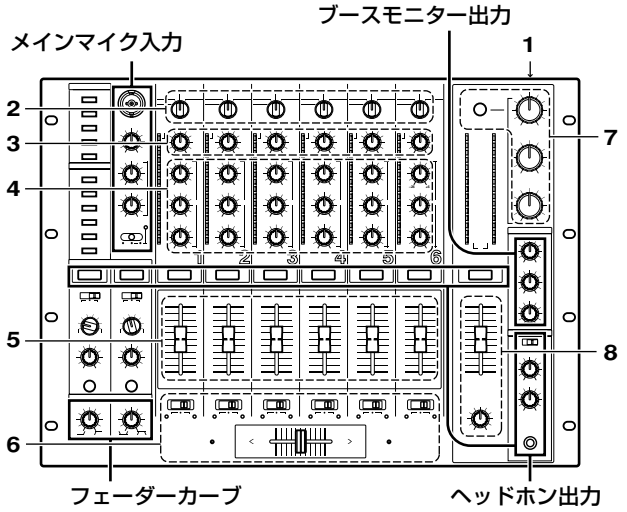
フェーダースタート／ストップ ON/OFF 部

47 フェーダースタートボタン／インジケーター (FADER START CH-1 ～ 6)

各チャンネルの CROSS FADER ASSIGN で A または B を選択しているときは、そのチャンネルのDJ用CDプレーヤーのクロスフェーダースタート／ストップ機能を ON/OFF します。
各チャンネルの CROSS FADER ASSIGN で THRU を選択しているときは、そのチャンネルのDJ用CDプレーヤーのチャンネルフェーダースタート／ストップ機能を ON/OFF します。
各チャンネルのボタンはフェーダースタート／ストップ機能が ON のとき点灯し、OFF のとき消灯します。

操　作

基本操作



1.後面(接続パネル)のPOWERスイッチをONにする。

2.使用するチャンネルの入力切換スイッチを接続した機器に合わせる。

3.TRIMツマミで入力レベルを調整する。

4.EQツマミ(HI、MID、LOW)で音質を調整する。

5.チャンネルフェーダーで使用するチャンネルの音量を調整する。

6.使用するチャンネルをクロスフェードするときは、CROSS FADER ASSIGNスイッチでクロスフェーダーのチャンネルAかチャンネルBを選び、クロスフェーダーを操作する。

- クロスフェーダーを使用しないときはCROSS FADER ASSIGNスイッチをTHRUにします。

7.アイソレーターを使用するときは、ISOLATORボタンをONし、ISOLATORツマミ(HI、MID、LOW)で各帯域のレベルを調整する。

- ISOLATORボタンをONにすると、ボタンが点灯します。

8.MASTERフェーダーツマミで全体の音量を調整し、BALANCEツマミで左右チャンネルの音量バランスを調整する。

【メインマイク入力】

1.メインマイクを使用するときはMICスイッチをONまたはTALK OVERにする。

- TALK OVERにしたときは、メインマイクに−15dB以上の音が入力されると、メインマイク音声以外の全ての出力が20dB減衰されます。

2.MIC LEVELツマミで音量を調整し、EQツマミ(HI、LOW)で音質を調整する。

【ブースモニター出力】

1.LEVELツマミで音量を調整する。

- MASTERフェーダーツマミに関係なくLEVELツマミで音量を調整できます。

2.HIツマミ(高音)とLOWツマミ(低音)で音質を調整する。

【ヘッドホン出力】

1.CUEボタン(CH-1〜CH-6、MASTER、RETURN1、RETURN2)でソースを選ぶ。

- 選んだCUEボタンが明るく点灯します。

2.MONO SPLIT/STEREOスイッチを選択する。

- MONO SPLIT位置では左チャンネルにCUEボタンで選択された音声、右チャンネルにマスター音声(MASTERのCUEボタンをONしたときのみ)が出力されます。
- STEREO位置ではCUEボタンで選択された音声がステレオで出力されます。

3.MIXINGツマミでMONO SPLIT時の左チャンネル(CUEボタンで選択された音声)と右チャンネル(マスター音声(MASTERのCUEボタンをONしたときのみ))の音量バランスを調整する。

- 右(MASTER側)に回すとマスター出力の音声(MASTERのCUEボタンをONしたときのみ)、左(CUE側)に回すとCUEボタンで選択された音声が出力されます。

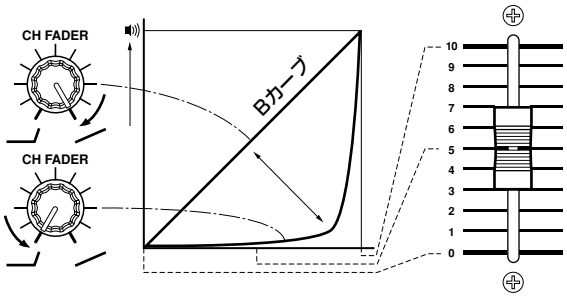
4.LEVELツマミでヘッドホンの音量を調整する。

フェーダーカーブの調整

フェーダーの操作に対応する音量変化特性を変えることができます。

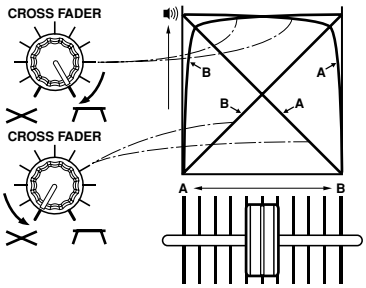
■ CURVE ADJUST部のCH FADERツマミを回し、チャンネルフェーダーのカーブ特性を調整する。

- 右に回しきると、フェーダーを上げるとほぼリニアに音量が上がるカーブ(Bカーブ相当)になります。
- 左に回しきると、フェーダーを上げてもなかなか音が出ず、フェーダーを上げきる寸前に音が出るカーブになります。
- チャンネル1〜6のカーブが同時に変化します。



■ CURVE ADJUST部のCROSS FADERツマミを回し、クロスフェーダーのカーブ特性を調整する。

- 右に回しきると、フェーダーを端から移動するとすぐに反対側の音が出る急激な立ち上がりカーブになります。
- 左に回しきると、ほぼリニアに音量が上がるカーブになります。
- A、B両側のカーブが同時に変化します。

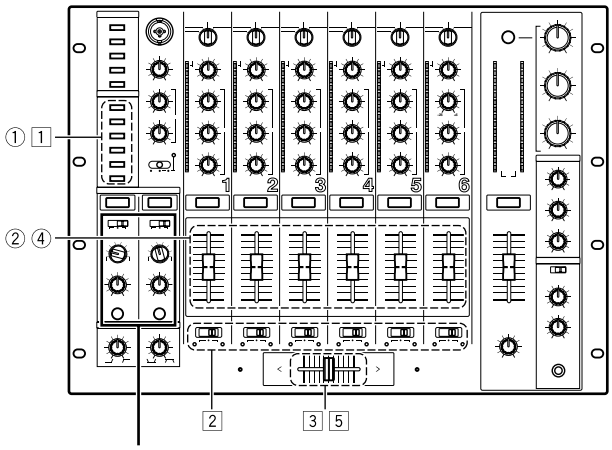


フェーダースタート機能

別売のパイオニア製DJ用CDプレーヤーのコントロールコードを接続すると、チャンネルフェーダーやクロスフェーダーでCDプレーヤーの演奏をスタートすることができます(デジタルリンク接続していればコントロールコードの接続は不要です)。
ミキサーのチャンネルフェーダーまたはクロスフェーダーツマミを動かすと、CDプレーヤーのポーズが解除し、自動的かつ瞬時に曲がスタートします。また、フェーダーの位置を元に戻すと、CDプレーヤーをキューポイントまで戻すこと(バックキュー)ができるのでサンプラーのようなプレイもできます。

【クロスフェーダースタートプレイ &バックキュープレイ】

クロスフェーダーのチャンネルAにアサインされたCDプレーヤーがキューポイントでスタンバイ時に、クロスフェーダーツマミを右端(B側)から左(A側)へ動かすだけでチャンネルAのCDプレーヤーがスタートします。
クロスフェーダーツマミが左端(A側)に到達するとチャンネルBにアサインされたCDプレーヤーがバックキューします(キューポイントに戻ります)。また、チャンネルBにアサインされたCDプレーヤーがキューポイントでスタンバイ時に、クロスフェーダーつまみを左端(A側)から右(B側)へ動かすだけでチャンネルBのCDプレーヤーがスタートします。
クロスフェーダーつまみが右端(B側)に到達するとチャンネルAにアサインされたCDプレーヤーがバックキューします。
※ 入力切換スイッチがCD/LINEを選択していなくても、バックキューします。



【チャンネルフェーダーでスタートする】

① **制御したいCDプレーヤーを接続したチャンネル(CH-1～CH-6)のFADER STARTボタンを押す。**
- 選んだチャンネルのボタンが点灯します。

② **チャンネルフェーダーツマミを「0」位置にする。**

③ **CDプレーヤーでキューポイントを設定し、キューポイントでスタンバイさせる。**
- あらかじめキューポイントが設定されていれば、キューポイントの位置でCDプレーヤーをスタンバイしておく必要はありません。

④ **スタートしたいタイミングで、チャンネルフェーダーツマミを動かす。**
- CDプレーヤーが再生を始めます。
- 再生開始後にチャンネルフェーダーツマミを「0」位置に戻すと、CDプレーヤーはキューポイントに戻り、スタンバイします(バックキュー)。

※ CROSS FADER ASSIGNスイッチがTHRUの時のみ、チャンネルフェーダーで制御できます。

【クロスフェーダーでスタートする】

1 **制御したいCDプレーヤーを接続したチャンネル(CH-1～CH-6)のFADER STARTボタンを押す。**
- 選んだチャンネルのボタンが点灯します。

2 **選んだチャンネルのCROSS FADER ASSIGNスイッチをAまたはBにする。**
- クロスフェーダーのチャンネルA(左側)にアサインするときはAにします。
- クロスフェーダーのチャンネルB(右側)にアサインするときはBにします。

3 **クロスフェーダーツマミをスタートさせたいチャンネルとは逆の方向いっぱいに移動する。**

4 **CDプレーヤーでキューポイントを設定し、キューポイントでスタンバイさせる。**
- あらかじめキューポイントが設定されていれば、キューポイントの位置でCDプレーヤーをスタンバイしておく必要はありません。

5 **スタートしたいタイミングで、クロスフェーダーツマミを動かす。**
- CDプレーヤーが再生を始めます。
- 再生開始後にクロスフェーダーツマミをいっぱいに移動すると、反対側のチャンネルにアサインされたCDプレーヤーはキューポイントに戻り、スタンバイします(バックキュー)。

※ デジタル接続のみの場合、フェーダースタートが機能しない場合があります。その場合は、CDプレーヤーのアナログ端子も接続してください。

外部エフェクターの使用

2台のエフェクターを接続できます。

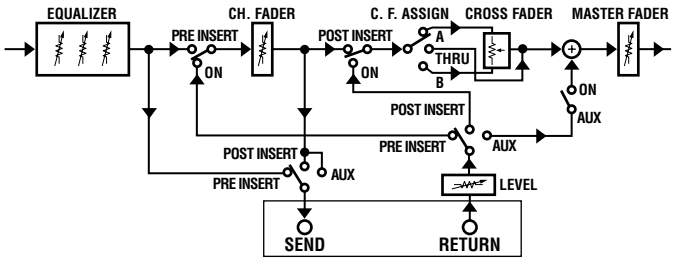
1 センドチャンネル選択スイッチでエフェクターへ送るソースを選択する。
- MIC、CH-1～CH-6、MASTERから選択します。

2 センド/リターンタイプ切換スイッチでエフェクターを接続するステージを選択する。
- センドチャンネルがMICの場合、PREとPOSTとも同一ポイントからのINSERTとAUXの切り換えのみ有効です。
  センドチャンネルがMASTERの場合、INSERTのみとなります。
  PRE INSERT:
  イコライザ出力でチャンネルフェーダーの前からSENDし、同じ場所へRETURNします。
  POST INSERT:
  チャンネルフェーダーの出力でクロスフェーダーアサインの前からSENDし、同じ場所へRETURNします。
  AUX:
  チャンネルフェーダーの出力でクロスフェーダーアサインの前からSENDし、マスターフェーダーの前にRETURNして、他の出力と加算します。SENDされた原音もクロスフェーダーアサインを通り加算されます。

3 センド/リターンボタンをONにする。
- センド/リターンボタンが点滅します。

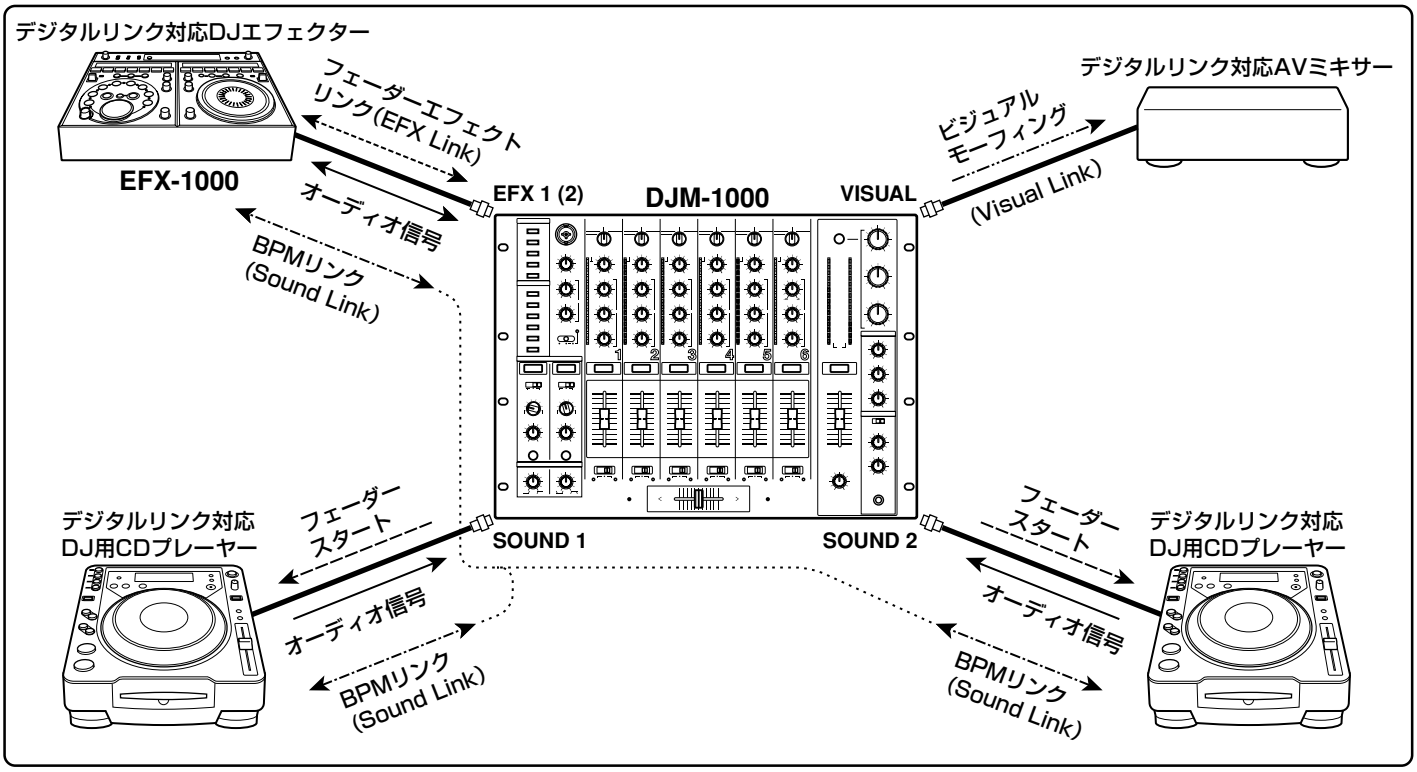
4 LEVELツマミでリターンの音量を調整する。

ソース \ ポジション	PRE POST AUX (INSERT)	PRE POST AUX (INSERT)	PRE POST AUX (INSERT)
MIC	INSERT		AUX
CH-1 — CH-6	PRE	POST	AUX
MASTER	INSERT		



デジタルリンク機能

リンクシステム図



EFX-1000のデジタルリンク接続

本機のEFX 1または2端子にDJエフェクターEFX-1000をデジタルリンクケーブルで接続します。
この接続により高音質デジタル接続でEFX-1000のエフェクトを使用できます。
接続後の操作は「**外部エフェクターの使用**」(14ページ)と同じです。
SEND/RETURN端子(フォーンプラグケーブルによる接続)と同時に接続された場合は、EFX用リンク入出力端子(デジタルリンクケーブルによる接続)が優先します。
(EFX-1000の設定に関しましてはEFX-1000の取扱説明書をご覧ください。

フェーダーエフェクトリンク(EFX Link)

上記接続状態で本機のチャンネルフェーダーを動かすと、 EFX-1000のジョグダイヤルを操作したときと同等の効果を得ることができます。

1 EFX-1000のデジタルジョグブレイクをONにする。

2 センドチャンネル選択スイッチでフェーダーエフェクトするチャンネルを選択する。
- CH-1～CH-6から選択します。

3 エフェクターリンクボタン(EFX 1、2)をONにする。
- エフェクターリンクボタンが点灯します。

注)このとき選択チャンネルの音量はチャンネルフェーダー最大になりますので、予めチャンネルフェーダーを最大にしたときの音量レベルを確認の上、ご使用ください。

4 センド／リターンボタンをONにする。
- センド／リターンボタンが点滅します。

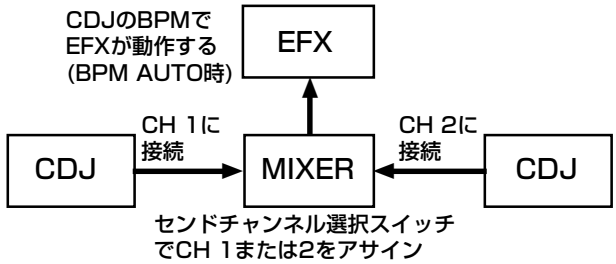
5 選択チャンネルのフェーダーを操作する。
- EFX-1000のデジタルジョグブレイクメーターおよび音が、チャンネルフェーダーの位置に対応して変化します。
- 選択チャンネルをクロスフェーダーにアサインしているときは、クロスフェーダーの位置に対応して変化します。
- センドチャンネル選択スイッチを切り換えるとフェーダーエフェクトリンクは解除され、エフェクターリンクボタンは消灯します。

デジタルリンク対応DJ用CDプレーヤーのデジタルリンク接続

本機のSOUND 1、2端子にデジタルリンク対応のDJ用CDプレーヤーをデジタルリンクケーブルで接続します。
この接続により高音質なデジタル接続でDJ用CDプレーヤーの音をミキシングすることができます。
またフェーダースタート機能もこの接続のみで可能になります。

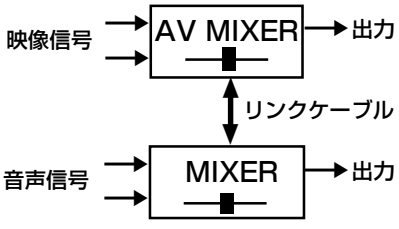
BPMリンク(Sound Link)

本機のSOUND 1、2端子にデジタルリンク対応のDJ用CDプレーヤーをデジタルリンクケーブルで接続し、EFX 1または2端子にDJエフェクターEFX-1000をデジタルリンクケーブルで接続すると、DJ用CDプレーヤーで測定した、より正確なBPM値でエフェクトをかけることができます。



ビジュアルモーフィング(Visual Link)

本機のVISUAL端子にデジタルリンク対応のAVミキサーをデジタルリンクケーブルで接続し、リンク機能をONにしたとき、本機のクロスフェーダーに連動してAVミキサーのクロスフェーダーも働かせることが可能になり、これにより音と映像が一緒に変化していきます。



故障？ちょっと調べてください

故障かな？…と思ったら、ちょっとチェックしてみてください。意外な操作ミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。同時に使用している電気機器もあわせてお調べください。
下の項目をチェックしても直らない場合は、お買上げの販売店またはパイオニア修理受付センター(裏表紙参照)へご連絡ください。

症　状	考えられる原因	処　置
電源が入らない。	● 電源コードがつながっていない。	● 電源コンセントへつなぐ。
音が出ない、または小さい。	● 入力切換えスイッチの位置が間違っている。 ● 接続コードが正しく接続されていない。または、はずれている。 ● 端子やプラグが汚れている。 ● 後面のマスター出力アッテネーターツマミ(MASTER ATT.)が−12dBなどになっている。	● 入力切換えスイッチで再生中の機器を選ぶ。 ● 正しく接続する。 ● 汚れをふき取って接続する。 ● 後面のマスター出力アッテネーターツマミ(MASTER ATT.)を調整する。
音が歪む。	● マスター出力レベルが高すぎる。 ● 入力レベルが高すぎる。	● 後面のマスター出力アッテネーターツマミ(MASTER ATT.)を調整する。 ● TRIM ツマミを調整して、入力レベルがチャンネルレベルインジケーターの0dB付近になるようにする。
クロスフェードできない。	● クロスフェーダーアサインスイッチの設定（A、THRU、B）が正しくない。	● クロスフェードするチャンネルのクロスフェーダーアサインスイッチを正しく設定する。
CDプレーヤーのフェーダースタートができない。	● フェーダースタートスイッチがOFFになっている。 ● 後面の CONTROL 端子を接続していない。	● フェーダースタートスイッチを ON にする。 ● コントロールコードで本機と CD プレーヤーの CONTROL 端子を接続する。
外部エフェクターの音が歪む。	● 外部エフェクターからの入力レベルが高すぎる。	● 外部エフェクターの出力レベルを下げる。または、リターン入力レベルツマミでリターンレベルを調整する。
外部エフェクターが効かない。	● センド／リターンボタンが OFF になっている。 ● 後面のリターン端子、または EFX LINK 端子にエフェクターが接続されていない。 ● センドチャンネル選択スイッチの位置を間違えている。	● センド／リターンボタンを ON にする。 ● 後面のセンド／リターン端子、または EFX 1、2 端子にエフェクターを接続する。 ● エフェクトをかけたいソースをセンドチャンネル選択スイッチで選ぶ。
リンク機能が効かない。	● 後面のリンク端子（EFX1、EFX2、SOUND1、SOUND2、VISUAL）にリンク対応機器が接続されていない。	● 本機とリンク対応機器をデジタルリンクケーブルで接続する。

● 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このようなときは、電源コードを一度抜いて再び差し込むことで正常になる場合があります。これで解決しないときは、お買上げの販売店またはパイオニア修理受付センター(裏表紙参照)へご相談ください。

リンク接続が正しく行われない場合、下記の項目をチェックしてください。

CAUTION表示	内　容	処　置
各リンクインジケーターが２回点滅	各リンク入出力端子に対象機器でないものが接続された。	接続するリンク入出力端子の確認をしてください。
各リンクインジケーターが３回点滅	各リンク入出力端子に DJM-1000 の LINK 端子同士、または別の DJM-1000 が接続された。	接続を確認してください。
各リンクインジケーターが４回点滅	各リンク入出力端子で通信エラーが起きた。	接続および接続ケーブルを確認してください。

保証とアフターサービスについて

保証書(別に添付してあります。)について

保証書は、必ず「取扱店名・購入日」等の記入を確かめ取扱店から受取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間と保証内容について

● **保証期間について**
保証期間は、取扱説明書の注意にしたがった使用で、ご購入日より1年間です。

● **次のような場合には保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、性能、動作の保証をいたしません。また、故障した場合の修理についてもお受けいたしかねます。**
本機を改造して使用した場合、不正使用や使用上の誤りの場合または他社製品や純正以外の付属品と組み合わせて使用したときに、動作異常などの原因が本機以外にあった場合。

● **故障、故障の修理その他にともなう営業上の機会損失(逸失利益)は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず補償いたしかねますのでご了承ください。**

補修用性能部品の保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後8年間保有しています。

修理を依頼されるとき

本書の「故障？ちょっと調べてください」をお読みいただき、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しないときには、必ず電源プラグを抜いてから、次の要領で修理を依頼してください。

● **保証期間中は**
万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社無料修理規定に基づき修理いたします。お求めの販売店またはパイオニア修理受付センター(裏表紙参照)にご相談ください。保証書の規定にしたがって修理致します。

連絡していただきたい内容
- ご住所 ・ ご氏名 ・ 電話番号
- 製品名 ・ 型番 ・ ご購入日
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- 訪問ご希望日
- 訪問先までの道順と目標(建物、公園など)

● **保証期間が過ぎているときは**
お求めの販売店またはパイオニア修理受付センターにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

仕　様

1. 一般

電源 ..... AC100V、50/60 Hz
消費電力 ..... 54 W
動作温度 ..... +5 ℃～+35 ℃
動作湿度 ..... 5 %～85 % (結露無きこと)
質量 ..... 12.1 kg
最大外形寸法 ..... 482 (幅)×359.3 (奥行き)×187.5 (高さ) mm

2. オーディオ部

サンプリングレート ..... 96 kHz
A/D、D/Aコンバーター ..... 24 bits
周波数特性 ..... 20 Hz～20 kHz
SN比(フルスケール時)
　LINE ..... 105 dB
　PHONO ..... 88 dB
　MIC ..... 84 dB
歪率 (LINE－MASTER1) ..... 0.005 %
ヘッドルーム ..... 19 dB
入力レベル
　PHONO ..... －52 dBu (47 kΩ)
　MIC、SUBMIC ..... －52 dBu (3 kΩ)
　CD/LINE、LINE ..... －12 dBu (22 kΩ)
　RETURN ..... －12 dBu (22 kΩ)
出力レベル
　MASTER1 ..... +2 dBu (600 Ω)
　MASTER2 ..... +2 dBu (10 kΩ)
　REC ..... －8 dBu (10 kΩ)
　BOOTH ..... +2 dBu (600 Ω)
　SEND ..... －12 dBu (10 kΩ)
　PHONES ..... +8.5 dBu (32 Ω)
クロストーク(LINE) ..... 88 dB
チャンネル数 6
チャンネルイコライザー
　HI ..... －26 dB～+6 dB (13 kHz)
　MID ..... －26 dB～+6 dB (1 kHz)
　LOW ..... －26 dB～+6 dB (70 Hz)
マイクコライザー
　HI ..... －6 dB～+6 dB (10 kHz)
　LOW ..... －6 dB～+6 dB (100 Hz)
ブースモニターコライザー
　HI ..... －6 dB～+6 dB (10 kHz)
　LOW ..... －6 dB～+6 dB (100 Hz)

3. 入出力端子

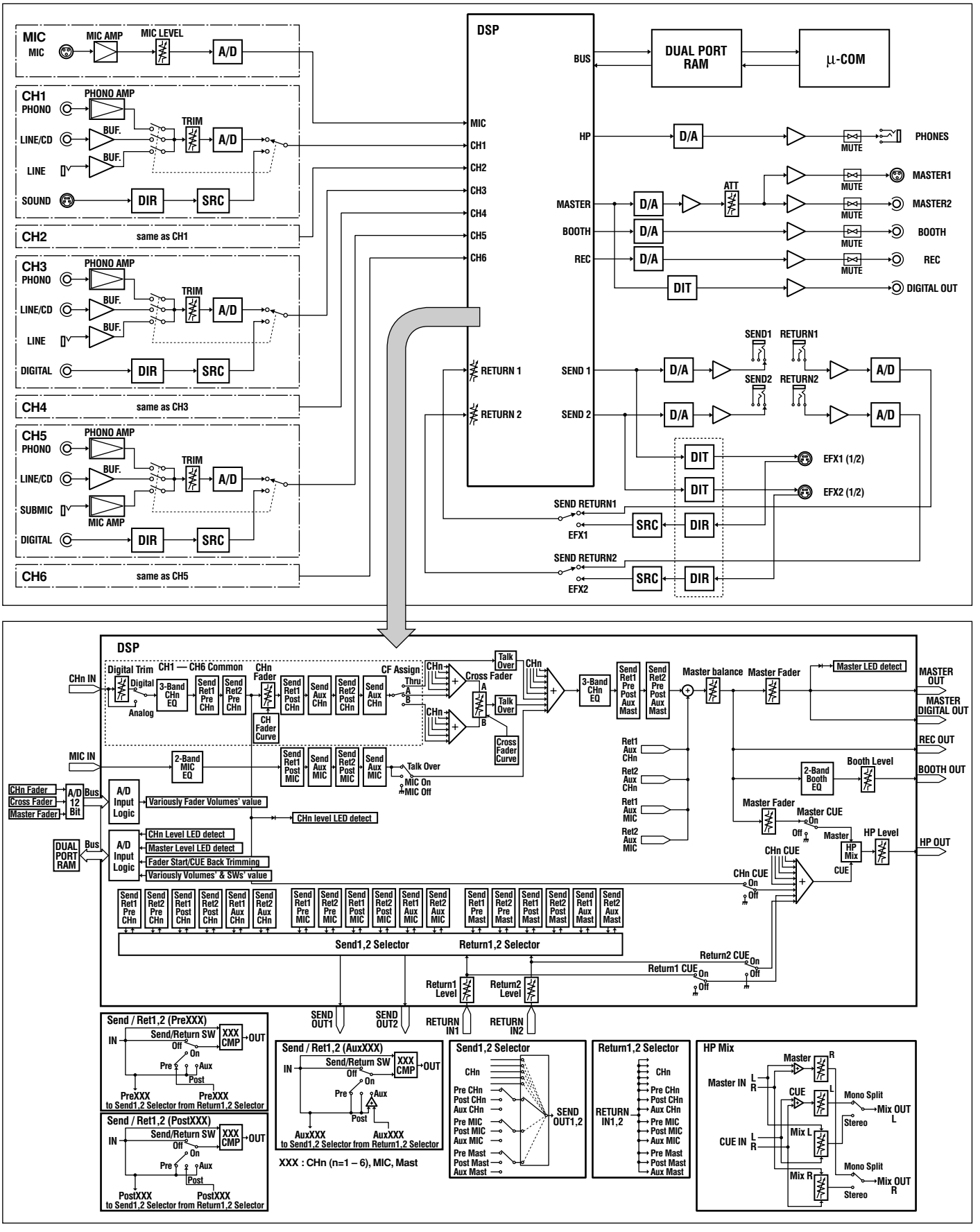
PHONO入力端子
　RCAピンジャック 6
CD/LINE、LINE入力端子
　RCAピンジャック 6
　フォーンジャック(φ6.3) 4
MIC、SUBMIC入力端子
　XLRコネクター/フォーンジャック(φ6.3) 1
　フォーンジャック(φ6.3) 2
DIGITAL同軸入力端子
　RCAピンジャック 4
RETURN入力端子
　フォーンジャック(φ6.3) 2
MASTER出力端子
　XLRコネクター 1
　RCAピンジャック 1
BOOTH出力端子
　RCAピンジャック 1
REC出力端子
　RCAピンジャック 1
SEND出力端子
　フォーンジャック(φ6.3) 2
DIGITAL同軸出力端子
　RCAピンジャック 1
デジタルリンク端子(EFX1、2、SOUND1、2、VISUAL)
　ミニDIN 5
MIDI OUT端子
　5P DIN 1

4. 付属品

取扱説明書 1
電源コード 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1
保証書 1

上記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

ブロックダイヤグラム


MIC
MIC AMP
MIC LEVEL
A/D
CH1
PHONO AMP
PHONO
LINE/CD
LINE
SOUND
BUF.
TRIM
DIR
SRC
CH2
same as CH1
CH3
DIGITAL
CH4
same as CH3
CH5
SUBMIC
CH6
same as CH5
DSP
BUS
DUAL PORT RAM
μ-COM
HP
D/A
MUTE
PHONES
MASTER
ATT
MASTER1
MASTER2
BOOTH
REC
DIT
DIGITAL OUT
SEND1
RETURN1
SEND2
RETURN2
RETURN 1
RETURN 2
SEND 1
SEND 2
EFX1 (1/2)
EFX2 (1/2)
SEND RETURN1
SEND RETURN2
EFX1
EFX2

DSP
CHn IN
Digital Trim
CH1 — CH6 Common
CHn Fader
CF Assign
Cross Fader
Talk Over
MIC IN
2-Band MIC EQ
CHn Fader
Cross Fader
Master Fader
A/D 12 Bit
Bus
A/D Input Logic
Variously Fader Volumes' value
CHn level LED detect
DUAL PORT RAM
CHn Level LED detect
Master Level LED detect
Fader Start/CUE Back Trimming
Variously Volumes' & SWs' value
Send1,2 Selector
Return1,2 Selector
Master balance
Master Fader
Master LED detect
MASTER OUT
MASTER DIGITAL OUT
REC OUT
BOOTH OUT
Booth Level
2-Band Booth EQ
Master CUE
HP Level
HP OUT
CHn CUE
Return2 CUE
Return1 CUE
Return1 Level
Return2 Level
SEND OUT1
SEND OUT2
RETURN IN1
RETURN IN2
Send / Ret1,2 (PreXXX)
Send / Ret1,2 (PostXXX)
Send / Ret1,2 (AuxXXX)
Send/Return SW
XXX CMP
PreXXX to Send1,2 Selector from Return1,2 Selector
PostXXX to Send1,2 Selector from Return1,2 Selector
AuxXXX to Send1,2 Selector from Return1,2 Selector
XXX : CHn (n=1 – 6), MIC, Mast
Send1,2 Selector
Return1,2 Selector
HP Mix
Master IN
CUE IN
Mono Split
Stereo
Mix OUT L
Mix OUT R

ご相談窓口・修理窓口のご案内

パイオニア製品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。
なお、修理を依頼される場合は、取扱説明書の「故障？ちょっと調べてください」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名　②ご購入日　③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

＜下記窓口へお問い合わせの時のご注意＞
市外局番「0120」で始まる フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

■ **テクニカルサポートセンター**（フリーダイヤル）
受付　月曜～金曜　10：00 ～ 18：00、土曜・日曜・祝日　10：00 ～ 12：00、13：00 ～ 17：00　（弊社休業日は除く）

▽ DJ機器のご相談窓口　電話（フリーダイヤル）　**0120-545-676**
ファックス　**03-3763-9503**

▽ インターネットホームページ　*http://www.pioneer.co.jp/support/index.html*
※ 商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

部品のご購入についてのご相談窓口

部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

■ **部品受注センター**
受付　月曜～金曜　9：30 ～ 18：00、土曜・日曜・祝日　9：30 ～ 12：00、13：00 ～ 18：00　（弊社休業日は除く）

電話（フリーダイヤル）　**0120-5-81095**
一般電話　**0538-43-1161**
ファックス（フリーダイヤル）　**0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合は、修理受付センターへ（沖縄県の方は、沖縄サービスステーションへ）

■ **修理受付センター**（沖縄県を除く全国）
受付　月曜～金曜　9：30 ～ 19：00、土曜・日曜・祝日　9：30 ～ 12：00、13：00 ～ 18：00　（弊社休業日は除く）

電話（フリーダイヤル）　**0120-5-81028**（ゴーバイオニア）
一般電話　**03-5496-2023**
ファックス（フリーダイヤル）　**0120-5-81029**

▽ インターネットホームページ　*http://www.pioneer.co.jp/support/repair.html*
※ インターネットによる修理受付対象品は、家庭用オーディオ／ビジュアル商品に限ります。

■ **沖縄サービスステーション**（沖縄県のみ）
受付　月曜～金曜　9：30 ～ 18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

一般電話　**098-879-1910**
ファックス　**098-879-1352**

愛情点検

長年ご使用の製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか?
- ◆ 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- ◆ 電源コードにさけめやひび割れがある。
- ◆ 電源が入ったり切れたりする。
- ◆ 本体から異常な音、熱、臭いがする。

⇩

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社修理受付センターに点検（有料）をご依頼ください。

© 2005 パイオニア株式会社　禁無断転載

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<06B00000>　Printed in　<DRA1399-C>